

大鹿HeatBeat

第 12 回 ~ 大鹿の人々 ~

紙谷 正 さん (84)



5月3日一段と活気を見せた大鹿村の春の歌舞伎公演。晴天にも恵まれ境内はねやねや(飯田弁で大勢の人で混雑、にぎわうこと)村民はじめ、遠くはロシアの方がこの日のために集い、大いに盛り上がりました。

年2回の歌舞伎公演は村内のGDPが最も上がる時といえよう露店を見ると、たこ焼き、コーヒー、小物売り場・・・「石笛」??・・・はて?大鹿のパワースポットブームにあやからうと「魔法のランプ職人」のハリさんは(ひょうたんでランプシェイド作人)中央構造線上(どうやら日本列島にあるパワースポットといわれる場所はこの上にあるらしい)にある



石を拾って穴を開け「石笛」なるものを考案し販売していた。ゼロ磁場分杭峠から流れる「気」を内に秘めた「石笛」なのだ。売れ行きは好調らしい・・・



「青いケシの花が1輪咲いたよ」大池の中村農園さんから初夏の花便りが届いたのは五月二十七日のことです。大鹿歌舞伎女形の第一人者で、花咲かおじ様の中村元夫さんのお花畑がだんだんと色づき始めます。ピークは15日から20日の見通しですが今年は冷夏の模様、順調に咲くかはお天気次第だということです。中村さんは、あおいけしのほかに3種類のケシを栽培されているので足を運ばれた際にはご注目いただければとおもいます。交通渋滞には注意!

大鹿スケッチ

2010
水無月
前志満くみ
第15号

5月1日、昨年から復活した佐倉惣五郎(さくらそうごろう)様のお祭り。(卯月号「春日様」訂正)江戸時代中期以降「地蔵堂通夜物語」や『東山桜荘子』などの物語や芝居に取り上げられ、義民として今でも主に関東地域で「農業の神様」として祀られているようです。佐倉様は江戸時代前期における下総国印旛郡公津村(現在の千葉県成田市台方)の名主。江戸時代、公津村は佐倉藩領で公津村の農民たちは藩主堀田氏による膨大な年貢の取立てに(苛政)苦しめられていた。そこで立ち上がるのが佐倉惣五郎。藩や江戸役人、幕府老中にも訴えたが聞きいれられず、ついには將軍徳川家綱にまで直訴。幸い藩主の苛政は収められましたが一家総勢死罪に。自らの命、



そして一家の命を投げ打ってまで領地の農民を守ろうと信念を貫いた魂に敬意と感謝を示し今年の無事の農事



～ 解散した集落 桃の平(もものたいら)を訪ねて～

大鹿村には36災害を機に解散した集落がいくつかあります。今回は地蔵峠に向かう途中 小渋川右岸、R125 沿い 上青木集落の南 桃の平を訪ねます。舗装がされていないでこぼこ道を進むと15分標高1000メートルほどのところに桃の平はあります。往時の桃の平は、川沿い(下の平)と山の中(上の平)に分かれていたのですが、現在は上の平は無人で、かつて、下の平と上の平を結んでいた吊り橋はS36年以降に壊されたということです。集落が解散して半世紀、上の平はこけむした石灯笼、朽ちた民家が7、8件、当時の面影をのこしています。ひとの往来がなくなったその周りには



には貴重な野生植物も多く根付いています。桃の平生まれて集落解散以降 大河原上市場にお住まいの坂下直一さん(72)に当時のお話を伺いました。坂下さんはS12年生まれ幼少時代を桃の平(上の平)で過ごされました。当時は23件の家がありおよそ140人余りが暮らしていたといいます。兄弟が多く坂下さんは12人兄弟の5番目。最大の思い出はとにかく「食糧確保に苦労したこと」だといいます。川沿いの下の平にあった分校からの帰り道、近道の橋を渡らず空腹を満たすため、

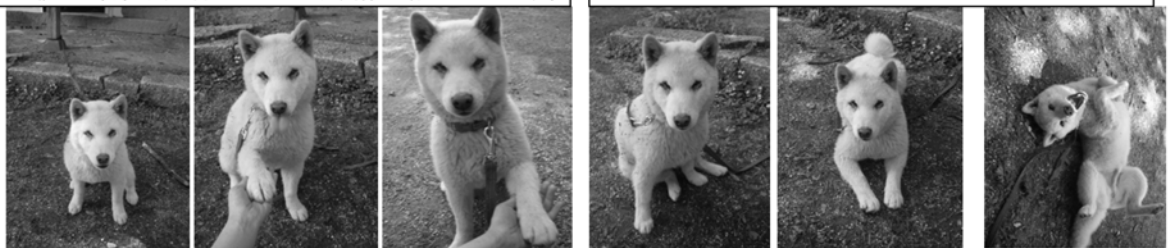


を祈願します。そんな佐倉様は大鹿村和合地域の山の中、大西山登山口から山道に行くこと2キロほど ひとしきり斜面を登げると尾根筋に平地があり、そこにあるお社に祀られています。南西には地蔵峠、北には分杭峠が望め、秋葉街道を見通せる場所で爽やかな風が通り抜けます。S30年代ごろまでは屋台も並び、地元の人だけではなく、飯田下伊那から参拝に来たといえますからそれは盛大に行われたということがわかります。この日はご近所の農業仲間10名ほどが集い、山道の整備をして持ち寄ったお酒を酌み交わしながらそれぞれの夢を語りました。このお祭りが終わって程なく田植えシーズン突入です。佐倉様に見守られながら紙谷さんの7枚の田んぼも1週間ほどかけて無事お田植えが終わり、5月30日からお蚕様が始まっています。

川沿いを歩きカジカ(魚)を丸呑みし、林の中では野鳥の巣を見つけ卵を食べ、秋は塩分補給にヌルデを食べたそうです。御自宅の前の畑の前に「ここに出てくる猿と同じな。ありとあらゆる木の実を食べつくしたに」と当時のことを振り返ります。現金収入のほとんどが炭焼き、初夏の養蚕で畑では豆や小豆、あわなどの穀物を作りお米と交換していたそうです。お米はなかなか食べられず、お弁当は今で言うマッシュポテトに味噌を塗ったものだったそうです。

♪ 伊那谷 花 情報 ♪

・阿智村治部坂高原の「レンゲツツジ」 6月初旬～中旬
夏季のロープウェイも運行中
・大鹿 中村農園 「あおいけし」6月オープン 土日は渋滞になることもあります。平日の来園をおススメします500円
・喬木村・九十九谷、飯田・伊那谷道中、伊那・深妙寺、「あじさい」 6月下旬
・JR 飯田線 桜町駅前 バラ



おすわり おて おかわり やなぎごし ふせ ゴロン!

大鹿歌舞伎春の定期公演が終わって間もなく「大鹿歌舞伎の里」という立派な本が大鹿歌舞伎保存会監修の元、出来上がってきました。非売品ですが大鹿全戸に配られていますので立ち寄られた際にはぜひ御一読を!初演から300年余りの歴史をひも解き、大鹿村歌舞伎に熱き情熱を寄せる多くの方の思い、そして大鹿歌舞伎の秘密にもせまっています。「くすくす」と笑えるネタから「ふむふむ」と感心したり、充実の内容です。多くの過去の歌舞伎の写真も掲載され、改めて感じるのは「過去の役者のほうが体の使い方が上手い」ということです。現代人は腰が落とせない。伝統芸能は肉体労働 土木や農業の中で培われてきたものだというをつくづく思いました。